

目指す学校			
<p>共生社会の担い手として、社会に貢献するたくましい勤労者を育成するために、学習活動をはじめとするすべての教育活動をととして、生徒一人一人の進路実現が果たせるよう「チーム秋留台」として生徒を支援していくことを目標とする。そのために、「学び直し」による基礎基本の定着、生活習慣の確立と規範意識の醸成、3年間を見据えた段階的・組織的な進路指導を通じて、生徒を励まし・勇気づけ・応援しながら生徒の可能性を伸ばし、社会人としてより良く生きていくための力を育成していく学校づくりを目指す。</p>			
1 学習指導	中期的目標と方策	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標等
	<p>1 エンカレッジスクールとして、生徒の基礎学力を伸ばすための授業改善・授業力向上を図る。特に「学び直し」の学習支援を組織的に行うことによって、基礎学力の定着を図っていく。</p> <p>2 「スキルアップ推進校」として、社会的実践力（グローバルスキル・デジタルスキル・コミュニケーションスキル）を伸ばすとともに、様々な課題解決ができるための創造的・論理的思考力を養いグローバル人材を育成するための体制づくりを確立する。</p> <p>3 教育活動の質の向上を目指すために、デジタル技術を活用した教育のデジタル化をさらに推進していく。</p> <p>4 社会的な自立を支援するために、通級指導の充実を図り特別支援教育を推進していく。</p>	<p>(1) 「アキルスタンダード」に基づき、基礎基本の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学び（分かる授業、やり取りのある授業、学んだことが深まりつながっていく授業等）の授業実践をととして、生徒の「分かった・できた・もっと学びたい」をねばり強く応援しながら、思考力・判断力・表現力の育成を図り、「自ら学ぶ力」を養う。</p> <p>(2) 「朝の30分授業（ベーシックⅡ・セルフマネジメント）・ベーシックⅠ」等特色ある授業のさらなる工夫・充実を図り、「学び直し」や「自立活動」の質を高めていく。また、基礎力診断テストでその成果を検証していく。</p> <p>(3) 教科、学年で資格取得（リテラス（論理言語力検定）・英語検定・情報処理検定等の資格）に向けて組織的な指導を行うとともに、外部人材等の活用やもっと学びたい生徒のための補習や講習を充実させ、個に応じた学習支援を実施して、学習意欲を向上させていく。</p> <p>(4) 「主体的な学びにつながるよりよい授業づくり」を目指すために、生徒一人1台端末を積極的に活用した授業力の向上及び生徒の活用率及び技術の向上を目指す。</p> <p>(5) 校内の教員同士の相互授業見学や校外での研修の参加を通じて、学校全体で授業力向上に向けた取組を実施していく。</p>	<p>①生徒による授業満足度の向上</p> <p>②教員同士の相互授業見学や研究授業を通じて、授業の教材や指導方法の工夫をしているかの満足度の向上</p> <p>③授業で基礎基本の学力がついたかの満足度の向上</p> <p>④ベーシック（学び直し）の授業の満足度の向上</p> <p>⑤リテラス（論理言語力検定）・英語検定等の資格取得者（合格者）の増加</p>
	<p>1 最後まであきらめずに進路実現を果たすための支援を行う。</p> <p>2 3年間を見据えた段階的・組織的（①調査・探究→②発見・選択→③進路の実現）な進路指導体制の実践。</p> <p>3 様々な進路行事をととして、変化する社会に柔軟に対応する力を養わせ、責任感をもって自己の役割を果たさせることにより、生徒の健全な勤労観と自己肯定感を育成する。</p>	<p>(6) 生徒一人一人の進路意識が向上するよう、進路選択に向けた組織的な指導を適切に行う。</p> <p>(7) 進路指導部と学年・担任、教科が情報を共有し、生徒・保護者に最新の進路情報や進路状況を提供し、「チーム秋留台」で同じ目線にたつて進路活動を実施し、進路実現を果たしていく。</p> <p>(8) 進路ガイダンス・分野別ガイダンス・企業研究・インターンシップ・学校説明会等の進路行事の内容を充実させる。</p>	<p>⑥進路決定率 95%以上</p> <p>⑦進路充実度の向上</p> <p>⑧個別の進路相談満足度の向上</p>
	<p>1 生徒に寄り添い、向き合いながら、ねばり強い指導や支援を行い、規範意識を身に付けさせ、基本的な生活習慣を確立させるとともに、自律的な生活態度の育成を図る。</p> <p>2 生命を大切にし、お互いを尊重する意識を醸成し、暴力やいじめのない安全安心な学校づくりを目指す。</p> <p>3 安全で落ち着いた教育環境づくりと校内美化活動を徹底し、より良い学習環境を目指す。また、防災訓練やセーフティ教室等を通じて、自助・公助・共助を理解させるとともに、命を大切にする心や他人を思いやる心を育み、安全に対する意識の向上を図る。</p>	<p>(9) 全教職員が一致した指導を組織的にを行い、HR、授業、部活動、各集会等あらゆる教育活動を通じて、生命の大切さ・基本的な生活習慣（挨拶の励行・時間厳守・授業規律、遅刻指導等）・ルールやマナー・通学マナー・SNS ルール等を身に付けさせ、自ら考え行動できる自主性や自己管理能力を育む指導を行う。</p> <p>(10) 暴力、いじめ、窃盗等の問題行動に対して厳格に臨むとともに、特別支援教育コーディネーター・自立支援コーディネーターを核として、スクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカー等の専門家や関係機関と連携しながら、生命にかかわる問題・いじめ、不登校・中途退学等の未然防止、早期発見、早期対応に向けた取組を行う。また教育相談を充実させ、生徒への支援を行うとともに、相談しやすい体制や環境づくりを推進していく。</p> <p>(11) 経営企画室と連携して、安全管理・教室内の整理整頓、環境美化に努めるとともに、生徒が主体となって校内外の美化活動や防災活動を積極的に行うよう指導していく。また、マナーキャンペーン等を通じて、交通安全指導を充実させ、通学時におけるルールやマナー（自転車通学における乗車用ヘルメットの着用等）を遵守させる。</p>	<p>⑨授業規律の遵守率の向上</p> <p>⑩ルールやマナーの遵守率の向上</p> <p>⑪通学のルールの遵守率の向上</p> <p>⑫SNS や情報モラルの遵守率の向上</p> <p>⑬セルフマネジメントをととして自己管理能力の向上</p> <p>⑭学校の教育相談体制の充実度の向上</p>
	<p>1 生徒同士が協働し、相互に高め合う集団づくりを行い、学校への帰属意識を高め、学校行事のさらなる充実を図る。</p> <p>2 部活動の活性化を図り、生徒の主体的な参加を通じてスポーツや文化活動に親しみ、これまで培ってきたオリンピック・パラリンピック教育の活動を「東京 2020 レガシー」として引き継いでいく。</p> <p>3 基礎体力や運動意欲の向上及び心身の健康の保持増進のための取組を活性化させる。</p> <p>4 図書館が情報発信の中心となるように、教科の授業、学校行事、探究活動等あらゆる場面で図書館を活用できる体制づくりを行う。</p>	<p>(12) 生徒会や委員会活動を活性化させ、学校行事のねらいを達成するとともに、行事を通じて生徒に成就感や達成感を体験させ、生涯にわたってスポーツや文化・芸術等に親しむ素地を養う。</p> <p>(13) 部活動の加入の奨励と部活動を継続させる働きかけを行い、部活動加入率の維持向上を図る。また、部活動に関する活動方針に基づき、チームワークづくりを重視し、学年を超えて生徒同士が高めあう集団づくりを行うことができるよう指導していく。</p> <p>(14) 保健体育の授業、部活動、体育的学校行事を通じて、健康づくりの基礎知識や基礎体力向上のための習慣を身に付けさせ、生徒の心身の健康づくりのための相談・支援体制を強化する。また国際理解やスポーツへの興味・関心を増幅させ「東京 2020 レガシー」を引き継いでいく。</p> <p>(15) あらゆる教育活動をととして、図書館を活用し、読書活動や生徒の主体的な活動の取組を行う。</p>	<p>⑮学校生活の充実度の向上</p> <p>⑯学校行事の充実度の向上</p> <p>⑰部活動の加入率 65%以上</p> <p>⑱部活動の充実度の向上</p>
	<p>1 募集・広報活動の工夫・改善により、推薦に基づく選抜及び第一次募集の応募倍率の向上を図る。</p> <p>2 HP 等の広報活動を活性化し、学校からの情報発信を積極的に行っていく。</p> <p>3 開かれた学校づくりを推進するために、地域活動へ積極的に参加し、地域貢献を行うことによって、地域から信頼される学校づくりを行う。</p>	<p>(16) 学校説明会・学校見学会・授業体験・部活動体験・個別相談会の内容を工夫し積極的な取組を行い、「進路指導に力を入れている学校」として中学生に本校の魅力をアピールし、本校を第一志望とする生徒を増やしていく。</p> <p>(17) 「今日の秋留台」等ホームページを通じて学校の様子を保護者・中学生・地域に発信していく。</p> <p>(18) 地域活動やボランティア活動等を通じ、生徒の自主性を養い、コミュニケーション能力や表現力を身に付けさせる。</p>	<p>⑲推薦 2.5 倍、第一次募集 1.2 倍以上の応募倍率</p> <p>⑳HP の更新回数 350 回以上</p> <p>㉑学校説明会等来校者数の向上</p>
	<p>1 企画調整会議の機能の活性化及び各種会議・研修会の活性化を図る。</p> <p>2 経営企画室と教員が一体となって教育活動を推進する。</p> <p>3 教育公務員として、高い使命感・倫理観をもって服務規律を遵守し、生徒・保護者・地域から信頼を得る。</p> <p>4 外部人材を有効に活用し「チーム学校」を創り上げ、ライフ・ワーク・バランスの推進及び働き方改革への取組を促進する。また職員室のフリーアドレスデスクをととして、教職員のコミュニケーションの円滑化と校務運営の効率化を図っていく。</p> <p>5 創立 50 周年記念行事を計画に沿って着実に進め、実施する。</p>	<p>(19) 組織体制として、調整（分掌・学年・経営企画室が協力して意思疎通を図りながら職務遂行する）と協働（教職員一人一人が当事者意識を持ちチームとして動く）を重視し、企画調整会議やその他各種会議を単なる報告会でなく、情報共有、意見聴取、課題解決と新たな取組の場に変えていく。</p> <p>(20) 経営参画ガイドラインに基づき、学校経営を支える企画立案への積極的な取組を推進し、教員と経営企画室が一体となって学校経営上の課題をタイムリーに解決する。</p> <p>(21) 適正な予算編成と計画的・効率的な予算執行を実施。施設設備の安全管理・維持及び迅速な修繕を実施し、財産管理を適正に行うことによってリスクマネジメントを強化する。</p> <p>(22) 日常的な点検を怠らず、報告・連絡・相談を徹底する。また研修等を通じて体罰禁止や服務事故根絶に向けて意識を向上させる。</p> <p>(23) 「チーム学校」として外部人材を活用し、職員室の環境改善を実施し、計画的な仕事の進行管理に基づき、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、業務の整理と縮減・削減、超過勤務時間の削減・年休取得率の向上を実施し、働き方改革を推進する。</p> <p>(24) 創立 50 周年記念行事に向けて、記念式典、生徒による成果発表、記念誌の作成、記念品の作成等関係機関と連携しながら円滑に進めていく。</p>	<p>㉒各分掌が学校経営計画に基づき、PDCA マネジメント・サイクルを確立するために、各分掌の組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施</p> <p>㉓一般需用費の学校経営支援センター利用率 65%以上</p> <p>㉔一般需用費の予算執行率 100%</p> <p>㉕服務事故ゼロ、体罰ゼロ、会計事故ゼロの実現</p> <p>㉖教職員の個別の超過勤務時間の削減</p>

